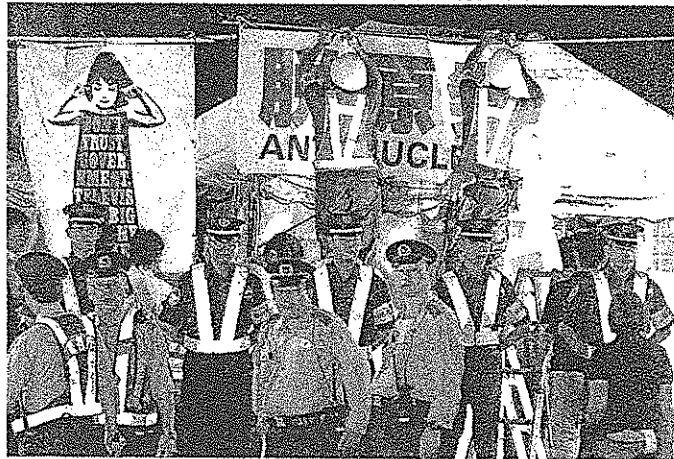


脱原発を訴える市民が抗議の拠点として経産省敷地内に設置していたテントの強制撤去=21日午前3時59分、東京・霞が関で

8/22
中福



市民ら「撤去すべきは原発」

東京地裁は二十一日未明、脱原発を訴える市民が国への抗議の拠点として東京・霞が関の経済産業省敷地内に設置していたテントを強制撤去した。立ち退きを命じた昨年十月の東京高裁判決が、今年七月に最高裁が市民側の上告を退け確定したことを受け、国が強制執行を申し立てていた。午前二時半すぎ、暗闇の中で東京地裁の執行官が強

脱原発テント強制撤去

制執行に着手してテントを次々と解体し、トラックに

積み込んでいった。テント周辺の歩道は警備員が封鎖した。十人ほどの市民が「撤去すべきは原発だ」「再稼働反対」と抗議の声を上げた。

撤去時にテント内にいた男性は取材に「世間から隠すようなやり方で、恥ずかしくないのか」と批判した。テントは東京電力福島第一原発事故をきっかけに、

都合悪い主張を排除

五野井郁夫・高千穂大教授(政治学)の話 省庁の敷地内で5年近く活動を続けたのは前例がない。賛否両論はあるが、党派を超えた人々が集まり、権力に対して議論をする場となっていた。強制執行は、政治に対して声を上げることへの不寛容さの表れ。テントの撤去は不法占拠という理由だが、政府にとって都合の悪い主張の排除と受け取られても仕方がない。

再稼働への意思表示

永田浩三・武蔵大教授(メディア社会学)の話 テントは再稼働反対や脱原発を多面的に考える拠点になっていた。原発再稼働を目指す現政権下では、こういう日が来ると予想された。不法占拠と言われれば、そうではないとはいにくいだが、判決では表現の場として一定の評価をしていた。国が強制執行を申し立てたのは、参議院選挙での勝利で政権として信任され、有無を言わさないという意思表示だ。